

「病」 特別講演 2 ここまでできた薬によるがん治療

2018 年 9 月 23 日 (日) 14:50-15:50 第 1 会場 | 石川県立音楽堂 2F コンサートホール

座長：宮本 謙一（金沢大学 名誉教授）

SL2 ここまでできた薬によるがん治療

矢野 聖二¹

1:金沢大学がん進展制御研究所腫瘍内科 教授／金沢大学附属病院がんセンター／金沢大学ナノ生命科学研究所 [石川県]



薬剤の開発は近年目覚ましい進歩を遂げている。日本人の 2 人に一人が罹患し、3 人に一人が命を失うがんにおいてはその傾向が顕著である。我が国のがん死亡原因の第一位である肺がんでは、遺伝子異常に基づいた分子標的薬による個別化医療や免疫チェックポイント阻害薬による免疫療法により、一部の症例においてはたとえ進行期であっても 5 年以上の生存や治療までもが期待できる状況になってきている。薬剤の様々な併用により更なる治療成績の向上を目指した開発が現在盛んになされており、近い将来治療レジメは非常に複雑になることが予想されるため薬剤師による綿密な管理がさらに必要とされるであろう。一方では、殺細胞性抗がん薬よりも副作用が少ないとされている分子標的薬や免疫チェックポイントにおいても、重篤な副作用が発生しうするため、多職種が連携したチーム医療による注意深い対応が必要である。薬剤師は、これまでも外来化学療法チームや分子標的治療チームの中心として重要な役割を担ってきたが、免疫療法やがんゲノム医療の臨床現場への導入に伴い、今後薬剤師の活躍の場はさらに広がることが予想される。本講演ではがんを中心に薬物療法の開発状況を紹介し、薬剤師への期待を述べたい。

【略歴】

勤務先 金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科、金沢大学附属病院 がんセンター
〒920-0934 石川県金沢市宝町 13-1

学歴／職歴 平成 2 年 3 月 徳島大学医学部医学科卒業
平成 7 年 3 月 徳島大学大学院医学研究科博士課程（内科系）修了
平成 9 年 1 月 徳島大学医学部助手（第三内科）
平成 9 年 9 月 米国テキサス大学 MD Anderson Cancer Center, Dept Cancer Biology
Visiting Assistant Professor (Isaiah J. Fidler 教授)
平成 12 年 10 月 徳島大学医学部・歯学部附属病院講師（呼吸器・膠原病内科）
平成 19 年 4 月 金沢大学がん研究所腫瘍内科教授
金沢大学附属病院がん高度先進治療センター長（兼任）
平成 23 年 4 月 金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍内科教授（名称変更）
平成 24 年 4 月 金沢大学附属病院 外来化学療法室長（平成 27 年 3 月まで）
平成 26 年 7 月 金沢大学附属病院 先端医療開発センター長（平成 29 年 3 月まで）
平成 26 年 10 月 金沢大学附属病院 緩和ケアセンター長（平成 28 年 3 月まで）
平成 28 年 4 月 金沢大学附属病院 がんセンター長（名称変更：兼任）
病院長補佐（臨床研究開発担当）
平成 29 年 6 月 文部科学省大学教育再生戦略推進費「超少子高齢化地域での先進的がん医療人養成（北信がんプロ）」統括コーディネーター
平成 29 年 9 月 WPI Nano Life Science Institute (LSI)（併任）
平成 30 年 4 月 金沢大学附属病院副院長（研究担当）

学 位 医学博士



受賞歴 平成 17 年 9 月 日本癌学会 奨励賞
平成 22 年 11 月 日本肺癌学会 篠井・河合賞
平成 25 年 10 月 JCA-Mauvernay Award (Applied research) (モーベルネ賞)
平成 26 年 6 月 日本がん分子標的治療学会 鶴尾隆賞
平成 29 年 3 月 金沢大学功労賞

所属学会 日本内科学会（総合内科専門医）、日本癌学会（評議員）、日本肺癌学会（評議員）、日本呼吸器学会（専門医、指導医）、日本がん分子標的治療学会（理事）、日本がん転移学会（評議員）、日本臨床腫瘍学会（監事、がん薬物療法専門医、指導医）、日本呼吸器内視鏡学会（気管支鏡専門医）、ASCO、AACR、IASLC、ESMO

専門分野 臨床腫瘍学、転移、薬剤耐性

Editorial Board Cancer Science (Associate Editor)

